

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	久が原ハーモニー保育園
施設所在地	大田区久が原1-1-9
法人名	社会福祉法人扶社会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

これが好き！広げよう、ぼくらの世界

<テーマの設定理由>

当園は南向きで日当たりが良く気持ちの良い保育室です。子ども達は戸外遊びももちろん大好きですが、保育室での遊びも好きで「お部屋で遊びたい！」という声もよく聞きます。4才頃になると意思を持って遊びに向かい、何かに見立てたり、お友達と共有したり、自分の想像を形にする姿が多く見られるようになりました。そこで好きな遊びに集中し、継続的に遊べたり、発展させたりすることで子ども達の興味・関心が膨らんでいくことをねらいとし、多くの時間を過ごす保育室の環境構成に焦点をあてました。

2. 活動スケジュール

<活動スケジュール>

- ・ 9月20日（土） 高山静子先生による環境構成の研修
- ・ 11月25日（火） 第1回振り返り
- ・ 11月26日（水） こどものとも社平井先生による4才児、5才児向けの積み木あそび
- ・ 12月17日（水） 第2回 振り返り
- ・ 1月21日（水） 第3回 振り返り
- ・ 2月21日（土） 第4回 振り返り
- ・ 2月24日（火） 横山篤次先生（KUMAファクトリー）による環境構成と選びの研修
- ・ 3月11日（水） 第5回 振り返り
- ・ 3月17日（火） 3才児、4才児、5才児合同の積み木遊び

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

子どもたちが快適に遊べるように基本である整理整頓清掃を見直しました。落ち着いたり視覚的にわかるようにマットを敷きクッションを置いたり、棚を設置しコーナーを作ったりテーブルを配置しました。見立て遊び、探索遊び、構成遊び、造形遊び、知的玩具等、遊びの種類を大まかに分けてコーナーを作り導線を整えました。

道具や材料に関しては、「子ども自身が遊びをつくり出す」ことができるものを熟考しました。想像力がふくらんだり、一人ひとりが個性を発揮したり、チャレンジする気持ちが芽生えるような環境を目指しました。またその延長線上には友達との共有・協働やコミュニケーションが広がっていくことも想像して環境構成しました。構成遊びでは大きな作品になることを考慮し、廊下にスペースを作り継続して遊べる環境を作りました。

■名作絵本、図鑑（図鑑仕事場など各種）

■見立て遊び→ままごと用の調理器具は小さすぎないもの、食器、お盆、弁当箱、ピッチャー、スポンジ、タオル、エプロン、ビーズ、プラスチックチェーン、お手玉、フェルト、シフォン、ハンカチ、ナプキン、色水、おはじき

■構成遊び→カプラ、カラー積木、透明積木、ジュエル積木、人形積木、動物積木、道路標識

■造形遊び…画用紙、折り紙、クーピー、クレヨン、色鉛筆、鉛筆削り、セロテープ、ハサミ、マンダラぬり絵

■知育玩具…神経衰弱、ほかボードゲーム各種、バランス、型はめ、モザイクパターン、模様づくり、モザイク遊び、模様あそび

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

9月に高山静子先生による保育者のための環境構成の研修を受けました。そこでは「子どもの発達と遊びの変化」について教えて頂き、物の量と質についても学びました。発達に合うものと合わないものがあり、子どもを遊んでくれるものと子ども自身が遊びをつくり出すものとの違い等、子ども達を取り巻く環境の重要性を改めて学ぶことができました。研修後は保育者同士で話し合い、適していないもの足りないもの等を見極め、遊びの材料と道具を再構成しました。

遊びの種類を、見立て遊び、構成遊び、造形遊び、知的玩具というように大きく分け、材料や道具を整頓・配置しました。積み木のような構成遊びでは大きなものを作ったり、そのまま飾ったり、続きを作ったりできるように積み木スペースを廊下に作りました。廊下が解放されたことにより視覚的に遊びの環境がわかりやすくなったようで、自ら動いたりお友達の中に入っていくような姿が見られました。

4才児5才児には想像を形にする力が育つように、積み木の遊び方を学ぶ機会を設けました。積み木だけでなくシフォンや人の形の道具や変形積み木も加え、4才児5才児の協働により素敵な世界が出来上がりました。3才児は4才児5才児が作る立体物に興味はあるものの、作り方がわからず戸惑う姿が見られるようになってきました。そこで3~5才児合同で積み木遊びを企画しました。

3~5才児合同での積み木遊びでは、年長がリーダーとなり縦割りで4つのグループを作りました。年齢間での考えの違いや問題が生じることに對して子ども同士で話し合いをして年長児がリーダーとなって一つのタワーを作ることに熱中する姿が見られました。年長は高さや大きさを出すためにどうしたらよいか考える過程の中で、友達同士の意見が割れて進まないグループがありました。他のグループを見て考えを改める姿や自分の意見を変えてどうしたら良いかを考える姿も見られました。3才児は始めは各々で作品を作ろうとしていましたが全員で作ることを理解すると、自分のできることを探して積み木を運んだり、やり方を教えてもらいながら活動に参加することができていました。

職員も球体作りにチャレンジしました。年長も球体にチャレンジしましたが、友達同士で意見が割れたりバランスの調整が難しい様子でした。職員の球体を観察している子もいました。

翌日の自由遊びでは、カブラの活動を経て、4才児も積み木エリアに足を運ぶ子が増え、タワーの要領でハートの形を作ったり、以前よりも発展した遊び方をしていました。

折り紙やままごと、お絵描きは毎日子ども達が熱中して遊べるように、いつでも使ってよいように取り出しやすくしたり、鉛筆の削り方なども自分達で発信できるようにしました。子どもが困った時の対処の仕方まで考え、長い時間集中して一つの遊びをする子が増えてきました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・廊下が解放されたことにより積み木やカブラでのびのびと遊べるようになりました。
- ・異年齢の関わりが増えました。
- ・廊下が解放されていることで子どもの視野が広がり、保育室やホール、廊下を自由に行き来して主体的に遊ぶ姿がありました。
- ・自分がやりたいことを言葉で伝える子が多くなりました。
- ・今までになかった無地のフェルトを大きいまま置いていたところ、それに気付いた3才児がコップの中に水色のフェルトをくしゃくしゃにいれて「お水をどうぞ」とウェイトレスとなって差し出してくれました。その後も黒いフェルトで海苔巻きや、茶色や緑のフェルトを重ねてハンバーガーも作ってくれました。ピンクのフェルトをハムに見立てた子が思い出したように食物図鑑を持ってきて、ベーコンや生ハムのページをじっと見ながらお料理に見立てようとしている姿がありました。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・大人の働きかけによって、子どもの遊びの幅が広がっていくこと。
- ・子どもによって物の使い方が違うので、ある程度のルールも必要だが遊びの中での柔軟性を大切にしたいと考えるとルール設定の作り方や在り方が難しいと感じた。
- ・発達に合った環境構成の大切さについて職員同士で共有することの大切さに気づいた。
- ・自発的な遊びを中心とするための空間づくりの重要性、子どもの活動を想定した空間づくり、そして遊びの変化に伴う空間の再構成の大切さに改めて気づくことができた。